

令和 6 年 5 月 20 日現在

機関番号：27103

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K13231

研究課題名（和文）コミュニティ・オーガナイズングと参加デモクラシー理論の再構成

研究課題名（英文）Community Organizing and Rethinking of the Civic Participation in Democracy Theory

研究代表者

石神 圭子 (Ishigami, Keiko)

福岡女子大学・国際文理学部・准教授

研究者番号：20640866

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アメリカにおけるコミュニティ・オーガナイズングという地域組織化運動に着目し、この活動がどのように民主主義に貢献しているのか？という問題について、組織運営と動員過程という側面から実証するものである。とくに、コミュニティ・オーガナイザーという「専門職」と普通の市民の間にある乖離（距離）を分析し、現代民主主義における市民参加、民主的リーダーシップという観点から理論のアップデートを試みる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、アメリカにおけるコミュニティ・オーガナイズングという活動が、どのような組織構造と運営形態を備えているのか、そしてコミュニティ・オーガナイザーはいかにして育成され、機能するのかを明らかにしている。政党や利益集団には含まれないNPO団体による組織化という「運動」は、決して自発的な市民参加を前提としておらず、むしろオーガナイザーを機能させることで民主的な「動員」を行っていることは、自発的な参加を市民に求めない新たなデモクラシー像を示すとともに、日本におけるコミュニティ・オーガナイズングの直輸入を部分的に修正する役割も果たす。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on Community Organizing in the United States and examines how this activity contributes to democracy. This study examines how this activity contributes to democracy regarding organizational management and mobilization processes. In particular, I analyze the gap (distance) between community organizers as “professionals” and ordinary citizens and attempt to update the theory from the perspective of citizen participation and democratic leadership in contemporary democracy.

研究分野：政治学 アメリカ政治

キーワード：コミュニティ・オーガナイズング 社会運動 地方自治 デモクラシー リーダーシップ

1. 研究開始当初の背景

現代デモクラシーの現状は、シニシズムの浸透、ポピュリストの登場など、市民の自発的参加を求めてきた参加デモクラシー論が前提とする市民像とは程遠い政治主体が担っている。本研究は、アメリカにおける「コミュニティ・オーガナイズング」という活動に着目し、市民の主体的参加がどのように行われているのか、あるいはないのか、そしてコミュニティ・オーガナイザーというリーダーシップの果たす民主的機能を模索するものである。

なお、2021年採択時、Covid-19による海外渡航制限のため、実際に現地調査を開始できたのは2022年度秋からである。

2. 研究の目的

コミュニティ・オーガナイズングをめぐる先行研究は、COが市民社会の活性化や貧困者、周辺化されてきた人々の社会的包摂に寄与していると評価してきた。それに対して本研究は、コミュニティ・オーガナイザーと組織化される側の「市民」の非対称性は必ずしも人々の自発的参加を必要とせず、むしろ緻密な戦略形成により「動員」を成功させているのではないかと、という仮説の下、コミュニティ・オーガナイザーというコミュニティ・オーガナイズング独自の人材がいかに育成され、どのように機能しているのかを明らかにする。そして、参加デモクラシー論そのもののアップデートを行うことを目的とする。

3. 研究の方法

基本的に現地でのオーガナイザー、地域のリーダー、参加者へのインタビューを行う。インタビューによって得られた質的データは、データソフト NviVo によって解析を行う。

4. 研究成果

渡航制限が解かれた2022年は、最後のアメリカ調査から4年経過し、現地のオーガナイザーとのスムーズなやり取りが非常に困難であった。同時期に加速した円安傾向もまた、長期間の滞在や渡航先の選定に影響を及ぼした。しかし、ニューメキシコ州アルバカーキ、テキサス州エルパソでの2度の調査により、コミュニティ組織の以下の構造が明らかになった。

まず、アメリカ最大のコミュニティ組織 Industrial Areas Foundation は、オーガナイザーの徹底した成果主義と内部のヒエラルキー構造を有している。オーガナイザーは、下からオーガナイザー、シニア・オーガナイザー、リード・オーガナイザーに分かれ、経験と成果によって昇進する仕組みである。リード・オーガナイザーは支部の統括を任せられ、支部の運営全体に責任を負う。組織は、政府の資金に頼ることなく、NPO(内国歳入法503(C)団体)として主に教会、労働組合、PTA、病院など、地域に自生する組織からの会費や寄付によって成り立っている。オーガナイザーは、そうした会費や寄付を集める。オーガナイザーの給与はそうした寄付や会費から拠出される。

さらに、オーガナイザーの最も重要な仕事は、組織化対象地域に潜在する「リーダー」を見出すことである。リーダーは、オーガナイザーに発掘され、多くの場合、訓練される。組織化の過程においては、オーガナイザーが前面に出るのではなく、こうした地域を良く知るリーダーらが近隣に声をかけ、主に教会を集会所にしてミーティングを重ね、住民のニーズを集約していく。Industrial Areas Foundation のオーガナイザーは他の系統組織に比べて「権威主義的」とされていたが、実際にはオーガナイザー内部、リーダーとの関係は責任の所在を明確にし、組織運営の透明性を高めるための工夫に満ちていた。オーガナイザーはリーダーの承認によって昇任・昇給し、リーダーはオーガナイザーの助言によって組織化のプロセスを担う。両者の間にはチェック・アンド・バランスが機能している。

リーダー、オーガナイザーらへのインタビューにより明らかになったのは、上記の非常に体系的な構造と住民を「動員」していく緻密なプロセスであった。周辺化された地域の住民は、主体的な市民ではない。むしろ、リーダーとオーガナイザーの動員戦略によって市民の参加が「仕組みられている」といってよい。動員という言葉は、市民参加の対照語のように扱われてきたが、動員と参加は、少なくともローカルな政治においては矛盾しない。とりわけ周辺化された対象地域の住民の真のニーズを集約するには、リーダーとオーガナイザーが仕組む様々な参加の回路が民主化に貢献している。たとえば、近隣住民の個人的な困りごとを「傾聴する」one-on-one や house meeting は、自ら主体的に話をする人ができない人や窮状をうまく言語化できない人々に言葉を与え、住民同士の紐帯を再構築することに寄与している。アメリカのコミュニティ・オーガナイズングに着目したとき、市民の自発的参加を金科玉条のごとく尊んできた参加デモクラシー論の刷新が可能である。

経験的に明らかなのは、市民社会におけるいわばエリート(オーガナイザー)とフォロワー(普通の市民)の分断である。ただし、それは参加を最小限に留めることを強調するシュンペーター型のデモクラシーを支持するものでも、ミヘルスのようにカリスマ的指導者による支配体制を支持するものでもない。むしろ、エリート主義的民主主義論に内包されている国家中心的な政治

学からの脱却、より広い意味での政治の定義の再考へと繋がっている。

なお、上記の成果については、2023 年度アメリカ学会分科会、日本 NPO 学会、そして日本政治学会において報告を行った。また、日本政治学会における報告ペーパーは、2024 年 3 月発行の『国際社会研究』第 13 号において公表した。さらに、2023 年 8 月には、日本においてコミュニティ・オーガナイズング研究を行う社会福祉、労働政治、各実践者との共編著『コミュニティ・オーガナイズングの理論と実践』（有斐閣）を出版し、領域横断的なコミュニティ・オーガナイズング研究の出発点を築いた。また、2021 年には現地調査においても必要となる英語論文「How is Democracy Corrupted or Resurrected?」を公表、また、地方自治に関する知識を深め、2022 年には『図録政治学』（弘文堂）の分担執筆も行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Keiko ISHIGAMI	4. 巻 11
2. 論文標題 How Is Democracy Corrupted or Resurrected? ;The Possibilities of Civic Engagement through Practices of Community Organizing in the United States	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際社会研究	6. 最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石神圭子	4. 巻 13
2. 論文標題 参加を仕組むーアメリカのコミュニティ・オーガナイズングの組織運営及び動員過程	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国際社会研究	6. 最初と最後の頁 59,84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石神圭子
2. 発表標題 日常を組織化することの政治性ーアメリカにおけるコミュニティ・オーガナイズングの動員過程
3. 学会等名 日本アメリカ学会 分科会（アメリカ政治）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石神圭子
2. 発表標題 コミュニティ・オーガナイズングはいかにして「つながり」を創出・切断するのかーオーガナイザーが介入する市民社会とは
3. 学会等名 日本NPO学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石神圭子
2. 発表標題 参加を仕組むーアメリカのコミュニティ・オーガナイズングの組織運営及び動員過程
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 西山 隆行、向井 洋子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 146
3. 書名 図録 政治学	

1. 著者名 室田 信一、石神 圭子、竹端 寛	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 278
3. 書名 コミュニティ・オーガナイズングの理論と実践	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://researchmap.jp/keikei619

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------